介護職員初任者研修 学則

1. 研修の目的

介護業務に携わる人材は、本町においても不足の状況にあり、益々増加している高齢者、また障がい者の方々等が、住み慣れた地域でこれからも安心して暮らして行けるよう、福祉人材の育成を図る事を目的に実施する。

2. 研修の名称

介護員養成研修

3. 法人の名称・住所

社会福祉法人 高千穂町社会福祉協議会 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井750番地7

4. 指定番号

4 5 0 5 4

5. 事業所の概要

名 称 社会福祉法人 高千穂町社会福祉協議会

住 所 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井750番地7

電 話 (0982) 72-3663

設 立 日 昭和29年7月27日

事業内容 地域福祉事業、居宅介護支援事業、特定相談支援事業 給食サービス事業、ふれあいいきいきサロン事業等

6. 研修カリキュラム

別表1 研修日程のとおり

7. 講義・演習室

高千穂町老人福祉館大広間

8. 実習施設

特別養護老人ホーム、通所介護事業所、訪問介護事業所、認知症対応型共同生活介護等

9. 講義を通信の方法で行う地域 講義演習に通学可能な地域

10. 講師プロフィール

(氏 名) (現 職 / 資 格)

橋本 显(特養雲居都荘介護職員兼介護支援専門員/介護福祉士、介護支援専門員)

興梠 公子(特養雲居都莊介護職員/介護福祉士)

柳田 佳耶 (地域包括支援センター/管理栄養士)

押方 久美子(地域包括支援センター介護支援専門員/看護師、介護支援専門員)

工藤 千鶴(訪問介護事業所サン・ルーム高千穂/介護福祉士)

寺尾 豊子(訪問介護事業所サン・ルーム高千穂/介護福祉士)

橋本 敏幸 (通所介護事業所皇寿の里/介護福祉士)

甲斐 寿子 (通所介護事業所皇寿の里/介護福祉士)

永野 悟(社協事務局次長/介護福祉士)

木下留美子(社協地域福祉係長/介護福祉士)

藤田 千恵(社協介護支援専門員/介護支援専門員、介護福祉士)

佐藤 博美 (養護老人ホームときわ園施設長/介護福祉士、介護支援専門員)

安在 静代 (グループホーム鶺鴒施設長/介護福祉士)

11. 使用テキスト

介護職員初任者研修テキスト 第3版 全2巻 中央法規出版(株)

12. 研修修了の認定方法

研修カリキュラムの全てを受講し、添削課題の評価基準を満たした受講生に修了試験(筆記試験)を行い、合格基準(100点満点で70点以上)に達した場合修了認定する。合格基準に満たない場合は、補講のうえ再試験を実施する。

13. 添削指導及び面接指導の方法

添削指導は自宅学習により行う。提出は配付日の次の講義の時とし、添削課題の合格基準(100点満点で70点以上)に達した場合修了認定する。合格基準に満たない場合は、再学習のうえ再提出とする。

14. 研修欠席者等に対する補講の方法

受講者がやむを得ない事情によってカリキュラムの一部を受講しなかったときは、 講師と日程調整のうえ補講を実施する。

15. 受講要件

原則高千穂町に住所を有する者及び町内の事業所に勤務する者。

16. 募集方法

高千穂町社会福祉協議会及び高千穂町役場福祉保険課、高千穂町保健福祉総合センターげんき荘内に掲示するとともに、社会福祉協議会ホームページ、また防災行政無線等を使い募集する。

17. 受講手続

高千穂町社会福祉協議会及び福祉保険課、げんき荘等に備えてある受講申込書により申し込む。

18. 受講料、実習費、補講、修了証明書の再発行に係る費用など受講者が負担する一切の費用及びその支払方法

15,000円(受講料、教材費含む)を開講日までに受講申込書提出とともに納入する。再試験及び補講に係る費用は徴収しないが、修了証明書再発行については、500円を徴収するものとする。

19. 解約条件及び返金の有無

受講者から申し出があった場合、また研修の運営に支障が生じる受講態度や、費用の納入がない場合には解約とする。納入済の費用については返金しない。

20. 受講中の事故等への対応

高千穂町社会福祉協議会が加入する傷害保険により対応する。

21. 個人情報の取扱い

受講者等に関する個人情報は高千穂町社会福祉協議会が定める個人情報保護規程に基づき取り扱う。

22. 修了証明書再発行の方法

再発行の依頼を受けたときは、本人または本人から依頼を受けた者であるかを確認 するとともに、速やかに発行するものとし、再発行にかかる費用と引きかえに渡す。

- 23. 情報の開示を行うホームページ URLhttps://takahuku.or.jp
- 24. 研修責任者の役職・氏名・連絡先

会長 興梠 久利

高千穂町社会福祉協議会 (0982) 72-3663

25. 研修担当者の役職・氏名・連絡先

事務局次長 永野 悟

高千穂町社会福祉協議会 (0982) 72-3663

26. 法人の苦情対応者の役職・氏名・連絡先

事務局長 佐藤 英次

高千穂町社会福祉協議会 (0982) 72-3663

27. 事業所の苦情対応者の役職・氏名・連絡先

同上

28. その他研修に関する必要事項

高千穂町社会福祉協議会会長がこれを定める。

附則

この学則は、平成29年10月2日から施行する。

この学則は、平成30年8月1日から施行する。

この学則は、令和元年8月1日から施行する。

この学則は、令和2年8月1日から施行する。

この学則は、令和3年7月1日から施行する。

この学則は、令和4年7月1日から施行する。

この学則は、令和5年6月1日から施行する。

この学則は、令和6年6月1日から施行する。

令和6年度 介護職員初任者研修 研修日程

科目名	合計	対面	通信	実習	実習日・時間
1 職務の理解	6	6			
① 多様なサービスの理解		3			8月6日(火)18:00~21:00
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解		3			8月9日(金)18:00~21:00
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9	4	5		
① 人権と尊厳を支える介護		2	3		8月13日(火)18:00~20:00
② 自立に向けた介護		2	2		8月16日(金)18:00~20:00
3 介護の基本	6	3	3		
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携		0.5	1		
② 介護職の職業倫理		1	1		8月20日(火)18:00~21:00
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント		0.5			0/) 2 0 1 ()() 10:00 21:00
④ 介護職の安全		1	1		
4 介護・福祉サービスの理解と医療との関係	9	2	7		
① 介護保険制度		1	2		
② 医療との連携とリハビリテーション		0.5	2.5		8月23日(金)18:00~20:00
③ 障害福祉制度およびその他の制度		0.5	2.5		
5 介護におけるコミュニケーション技術	6	2	2	2	
① 介護におけるコミュニケーション技術		1	1	1	8月27日(火)18:00~20:00
② 介護におけるチームのコミュニケーション技術		1	1	1	07,72 7 11 (50,7 10 100 20 100
6 老化の理解	6	3	3		
① 老化に伴うこころとからだの変化と日常		1	2		8月30日(金)18:00~21:00
② 高齢者と健康		2	1		(m) 10 1 (m) 10 10 11 100
7 認知症の理解	6	3	1	2	
① 認知症を取り巻く状況		1		1	
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		0.5	0.5		9月3日(火)18:00~21:00
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常		1		1	
④ 家族への支援		0.5	0.5		
8 障害の理解	3	1.5	1.5		
① 障害の基礎的理解		0.5	0.5		
② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎 知識		0.5	0.5		9月6日(金)18:00~19:30
③ 家族の心理、かかわり支援の理解		0.5	0.5		

9 3	ころとからだのしくみと生活支援技術	77	37.5	14.5	25	
	① 介護の基本的な考え方		3	1		9月10日(火)18:00~21:00
	② 介護に関するこころのしくみの基礎知識		3	1		9月13日(金)18:00~21:00
	③ 介護に関するからだのしくみの基礎知識		3	1		9月17日 (火) 18:00~21:00
	④ 生活と家事		2.5	0.5	2	9月20日(金)18:00~20:30
	⑤ 快適な居住環境整備と介護		2.5	0.5	2	9月24日 (火) 18:00~20:30
	⑥ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		2.5	1	4	9月27日(金)18:00~20:30
	⑦ 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		2.5	1	4	10月1日(火)18:00~20:30
	⑧ 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		3	0.5	3	10月4日(金)18:00~21:00
	⑨ 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		2.5	1	4	10月8日(火)18:00~20:30
	⑩ 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		2.5	1	4	10月11日(金)18:00~20:30
	⑪ 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		2.5	1	2	10月15日(火)18:00~20:30
	② 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護		2	1		10月18日(金)18:00~20:00
	③ 介護過程の基礎的理解		3	2		10月22日(火)18:00~21:00
	④ 総合生活支援技術演習		3	2		10月25日(金)18:00~21:00
1 0	振り返り	4	4			
	① 振り返り		2			10月29日(金)18:00~20:00
	② 就業への備えと研修終了後における継続的な研修		2			11月1日(火)18:00~20:00
	合計	132	66	37	29	
	修了評価	1	1			12月17日 (火) 18:00~19:00

※11月から12月上旬にかけて施設での実習が入ります。

いて、介護協び必まが未増行。として、公の場合として、必要により、対象の研修に、製造のおきないで、どのような大きで、として、公の場合として、以来の研修に、実践的に取り組めるようになる。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ボス 様な働く現場に が供事内容 を際のが 置付けに始まるサイン 置付けにのーーチ でのよアプロースを 資源との連携 特 での東禁止
# 14 ~ ※、その人の生活を支える 加速性の全体像をあらかにめイメージできる 企て、赤薄陽が住事を行うのか、具体的イメージを持って実成し、以下の一部を体系的に登録できるような素地の形 のような形で、どのような作事を行うのか、具体的イメージを持って実成 仏閣を育す。 仏閣を育り、 仏閣を育るととも自由します。 仏閣を育るととも自由します。 仏閣を育るととも自由します。 仏閣を育るととも自由します。 仏閣を育るととも自由します。 仏閣を育るととも自由します。 仏閣を育るととも自由した自立を持つ。 仏閣を育るととも自己を言る。 仏閣を育るとは、日本という現金に対する。 仏閣を育るとは、日本というは、日本というは、日本というなられる。 仏閣を育るとは、日本というは、日本というなられる。 山田のよりに、日本という観念に対する。 仏閣・本書を入ると、日本といる人の側別性を理解している。 小護の専門性、方が、の本要は、日本との本語を入ると、日本といる人の生活を支えると、と、一部を経り上のいての事者をいます。 小意においるを検を提える事ができる。 小藤の本町によっては、本理性を理解するとともに、場らによっては 小護においる女権を捉えるといる人のを要は、一、大きなとともに、場らによっては 小護においる女権を捉えるまができる。 小意に依はは掛することが正要で 小意においる安全とした。 仏は、 小意においる安全とした。 仏は、 小意においる安全と 本院ともとした。 仏は、 小意においる安全と 本院ともとも、場のによっては 小意においる安全と 本院ともとも、場のによっては 小意においる安全の 本院ともとも、場のによっては 小意においる安全と 本院ともとも、場のによっては 小意においるならな 本院とも 小意においるならな 本院とも 小意においるならな 本院とも 本院とも	ボス 様な働く現場に が供事内容 を際のが 置付けに始まるサイン 置付けにのーーチ でのよアプロースを 資源との連携 特 での東禁止
「存在にははなケア1等の実践について、企業機がとのような仕事を行うのか、具体的イメージを含って表面、し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。 ② 介護における が、実験が、利用者の尊厳のある者のし、現場を使す。 一般を教育を出来るかぎり具体的に理解がきる。 一人様と尊厳を支える が、実験が、利用者の尊厳のある者のし、以降の場所の事態の表面の、主ななの場所により、企業を指出るためたと、自立、上立支援の指導がよいう意。 一般を放け、一般を表面を対している。 「具体的な事例を複数がし、利用者及びそした。 一次を放けた子供的に理解がきる。 一人様と尊厳を支える が、連続の社会が出まれたアインの提供に対しての基本的場合及びやってはいけたいで、 「発展の基本的なボイントを列挙できる。」 ・・介護の基本的なボイントを列挙できる。 「発展がよりの発生というないないが、 「発展がより、対している。 「会体がより、対している。」 「中央教育」 「おいるのがなどをなり、対しないるとなど、「対しないる」 「中央教育」 「大き教育」 「大きないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	様な働く現場に 様な働く現場に が仕事内や がとの でがいたがまるが でででででいまるで でででででででででする での でがまるでででする。 でがまるできる。 では、 でがまる。 では、 でがまる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、
のような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持つて実践した。以降の研修に実践的に取り組めるようになる。 「無限世別科等を工夫するとともに、必要によりな、対しておりる。」 「無限世別科等を工夫するとともに、必要に表す、主なとなる。 「無限が、利用者の尊敬のある最ら、自立支援・労・下防いりか等。」 「具体的な事例を複数示し、利用者及びその定数・対し、主な支名・専門職であることを自営し、自立支援・労・下防いりが等。」 「長体的な事例を複数示し、利用者及びその定数・対し、現体的は退放した。」 「人権と尊敬の変弱の変弱にその主ま応えることと、自立支援・労・下防いりが会力、正志がしからで、この基本的視点及びや・つてはいけない。 「否確しまして、の。」 「大きの違い」 日立という様念に対する 「おきの違い」 日立という様念に対する 「完確している」 「おきのようを特定」」 「具体的な事例を複数示し、利用者の教育を方との道は、自立という様念に対する。 「否確はている」 「不護の基本的なポイントを列挙できる。 「不護職によめられる専門性と職業」 「利用者の尊敬を考し、係らいる言動とその理解とない。」 「小きな身に、いる高齢者への対する方法に対している。 「非確している」 「利用をの事務を行い、高齢者信付に対する 理解を受けている高齢者への対する方法に対している。 「非確している」 「利用者の尊敬を考しい、高齢者信付に対する 理解にないま、職務を必要としている高齢者への対する方法に対している。 「非確している」 「可能な限の」具体例を受けている高齢者への対する方法に対しての事情を受けている高齢者への対する方法に対しての事情を受けている高齢者との「本のを関係といる人の生活を支援している。 「非確しないる」 「可能な限の具体的を受けている高齢者の対する」 「中でに向けた介護 「自立を関係しなの連絡」 「中でに向けた介護 「自立に関係の事情を受けている高齢者信付に対する」 「無な事のに関係しないる」 「無な事のでと、「非確しいる」 「無な事のでと、「非確しいる」 「無な事のでと、「非確しいる」 「無な事ので全、「非確しいる」 「非確しいる」 「非確しいる」 「無な事のでを受けている高齢者はいた」 「非確しいる」 「無な事のに関係しないる」 「無な事のでを受けている高齢者はいる一、「無な事のに関係しないる」 「無な事のに関係しないる」 「無な事のでを受けている高齢者はいまする」 「無な事のに関係しないる」 「無な事のでと、「非確しいる」 「無な事のでと、「非確しいる」 「無な事のでを受けている高齢者をできる」」 「無な事のでと、「なる」 「なる」 「なる」 「なる」 「なる」 「なる」 「なる」 「なる」	に際のサービス提 イメージ 置付けに始まるサ でるまでの一連チームアプローチ含 資源との連携 持
のか、具体的イメージを持って実成しし、以下の研修に実践的に取り組め るようになる。	イメージ 置付けに始まるサ Eるまでの一連の ームアプローチ・ 食外サービスを含 資源との連携 持
し、以降の研修に実践的に取り組め るようになる。 ないて見学を組み合わせるなど、介護職が を放り、利用者の専士のなど、 のないでは異ないる。 ・	置付けに始まるサ Eるまでの一連の ームアプローチ・ 食外サービスを含 資源との連携 持 コン 向束禁止
	Eるまでの一連の ームアプローチ・ 食外サービスを含 資源との連携 持 コン 句束禁止
本的に理解させる。	ームアプローチ・
② 介護における 介護職が、利用者の尊厳のある暮ら しを支える専門職であることを自覚 しを支える専門職であることを自覚 しを支える専門職であることを自覚 した。自立支援・介護予防という療診・できる。 (評価ポイント) 介護の目標や展開について概説できる。 (評価ポイント) 介護の目標や展開について概説できる。 介護の基本的なポイントを列挙できる。 介護の基本的なポイントを列挙できる。 のを理解している。 (評価ポイント) 介護の必要性に気づき。 殿務によりはついて考えさせ、尊厳とい句様のと対する 関血について考えさせ、尊厳とい句様のと対する 力を変化を促す。 ・ 介護職に求められる専門性と職業 のためを理解している。 ・ 介護を必要としている人の個別性を理解している。 ・ 介護を必要としている人の個別性を理解したとの大きをとした。 場合しよっては、	資源との連携 持 タョン 対東禁止
2 介護における 介護職が、利用者の車輪のあるêら 具体的た事例を複数示し、利用者及びそした。 (本) で表述の元とを自動であることも自動で表す。 京藤の保持・自 立文技・介護予防という介護・	持 ⁄ョン 句束禁止
# 飲の保持・自	⁄ョン 句束禁止
□ 支援 □ 大震・介護・新というの護・ 福祉サービスを提供するに当たのである方に基づいたケア 名介えとの違い。自立という概念に対する 気づきを促す。 ・ 「は何はイント」 介護の目標や展開について概認できる。 ○ 介護の基本的なポイントを列挙できる。 ○ 介護職に求められる専門性と職業 が高速のが関係を促す。 ○ 中部に取り具体例を示す等の工夫を行い、 ○ 介護職に求められる専門性と職業 が高速のの必要性に気づき、強務において考えさせ、専厳という概念に対する知解を促す。 ○ 介護の専門性と職業 ・ 「神経を促す。 ○ 可能に取り具体例を示す等の工夫を行い、 ○ 介護の専門性 性と多職種との連携 ○ 企理解している。 ○ 介護におけるリスクモその対応策のうち重要なものを理解している。 ○ 介護におけるリスクモ会の対応であるとしている人の個別性を理解している。 ○ 介護におけるリスクロに気づき、緊急対応の重要性を提供力をとせれ、場合によっては、 ○ 介護における安全の ○ 介護における安全の ○ 介護における安全の ○ 介護における安全の ○ 介護における安全の ○ 介護の専門性、 ○ 保証・イー人で対応しまうせず、 中上でス程度の専門性、 ○ 方護の専門性、 ○ 介護における安全の ○ 介護の専門性、 ○ 介護の専門性 ○ 介護の専門性、 ○ 介護の専門性 ○ 介護の専門性、 ○ 介護の事業を企っます。 ○ 介護の事業を企っます。 ○ 介護の事業を企っます。 ○ 介護の事業を必ず、 ○ 介護の事業を必ず、 ○ 介護の事業を必ず、 ○ の・「対域の事業を必ず、 ○	拘束禁止
福祉サービスを提供するに当たって の	拘束禁止
・行動例を理解している。 (評価ポイント) 介護の目標や展開について概認できる。 介護の基本的なポイントを列等できる。 3 介護の基本 ・・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、服務におおられる専門性と職業信力とないる高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者清待に対する理解を促す。 ・・可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、 ・・方護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、服務におおられる専門性に対する理解をした。 ・・可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、 ・・方護職に求められる専門性と職業 (計るリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・・介護を必要としている人の個別性を理解した。 ・・介護を必要としている人の個別性を理解した。 ・・の必要性に就者を支えるという視点から支援を捉える事ができる。 「評価ポイント) 介護の専門性、医療・看護との連携の必要性、衆業倫理の必要性、職業倫理の重要性、介護、おと実感できるより促す。 4 介護・福祉サービスの理解を医療・看護との連携の必要性、職業倫理の国要性、介護保険制度・障害者総合支援制度、その他制度、の必要性、職業倫理の可となくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その観要のポイントを列挙できる。 (評価ポイント) ・・介護保険制度・障害者総合支援制度、イン・対応に対ける安全のが確保とリスクマネジメント・護職の安全・一・が護に関わる場で表した。 ・・介護保険制度を確認している。 ・・一・「大き、理解している、一・・「大き、対して、対策、対して、対策、対し、対し、対策、対策、対策、対域、対策、対し、対策、対し、対策、対域、対策、対域、対策、対域、対域、対策、対域、対域、対策、対域、対域、対域、対域、対域、対域、対域、対域、対域、対域、対域、対域、対域、	
(評価ポイント) 介護の目標や展開について概説できる。 介護の基本的なポイントを列挙でき る。 3 介護の基本 ・ ・	る制度の概要
↑護の目標や展開について概説できる。	
を促す。	
理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを使す。 ・虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者唐待に対する理解を使う。 ・介護職に求められる専門性と職業 倫理の必要性に気づき、職務におり入り、介護職に求められる専門性に対する理解を しか。 (対しスタとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・介護と必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるとともに、場合によっては それに一人で対応しようとせず、サービス提供 の必要性、職業倫理の重要性、介護の専門性、医療・看護との連携 の必要性、職業倫理の重要性、介護の専門性、医療・看護との連携 の必要性、職業倫理の重要性、介護の事門性、医療との連携 の必要性、職業倫理の重要性、介護の事門性、医療との連携 を担う一員として最低限知ってお くべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の力に対しておりた。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の力に考えるという視点を 共有し、その生活を支援するための介護保険制度、で他制度 のサービスの位置付けや代表的なサービス の理解を促す。 の理解を促す。 の理解を促す。 ・介護保険制度 医療との連携とり、利用者の生活を中心に考えるという視点を 共有し、その生活を支援するための介護保険制度、で他制度 のサービスの位置付けや代表的なサービス の理解を促す。 ・企業者後合支援制度を担 ・介護保険制度 医療との連携とり、・一定行為と介護 医療との連携とり、・一定行為と介護 医療との連携とり、・一定行為と介護 医療との連携とり、・一定行為と介護 医療との連携とり、・一定行為と介護 医療との連携とり、・一定行為と介護 医療との連携とり、・一定行為と介護 医療との連携とり、・一定行為と介護 医療との連携とり、・一定行為と介護 ・・施設における看達 ・・リハビリテーショ で書者自立支援制 で書者福祉制度 度およびその他の制度 では出みの基礎 ・リフトリテーショ で書者自立支援制 で書者福祉制度 では出みの基礎 ・ ・ 「で書者の力」を では、 ・ 「で書者の力」を できる ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	
する気づきを促す。 ・	
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
3 介護の基本	
3 介護の基本	
□ の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。 (評価ポイント) 介護の専門性、医療・看護との連携の必要性、職業倫理の重要性、介護リスクについて列挙できる。 (評価ポイント) 介護の専門性、医療・看護との連携の必要性、職業倫理の重要性、介護リスクについて列挙できる。 (評価ポイント) 介護保険制度や障害者総合支援制度を担っしまして最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) (主法を中心に考えるという視点を表しいで表えるという視点を表しいで表しいで表しいで表しいで表しいで表しいで表しいで表しいで表しいで表しいで	
けるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・介護を必要としている人の個別性を理解するとともに、場合によってはを理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。 ・介護・福祉サービスの理解と医療・看護との連携の必要性、職業倫理の重要性、介護リスクに気づき、緊急対応の表しまってはを理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。 ・介護・福祉サービスの専門性、医療・看護との連携の必要性、職業倫理の重要性、介護リスクについて列挙できる。 ・介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておると事態できるよう促す。 ・介護保険制度を担う一員として最低限知っておる理解を徹底する。 ・介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ・介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ・介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ・介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ・介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ・介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ・介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ・介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ・介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ・介護保険制度を担から、動向向して、その概要のポイントを列挙できる。 ・介護保険制度を担から、動向向して、方護保険制度、その他制度の対象を提供を関するという視点を対象によりるを対象を表しまった。 ・一に表して、方護保険制度、をの他制度の対象を促動して、方法保険制度、をの他制度の対象を促動して、方法保険制度を担から、動向の力を発酵を促動して、方法保険制度を担から、動向の力を発酵を促動して、対象を促動して、対象に対しる者を対象を促動して、対象に対しる者を表して、対象に対しる者を対象を促動して、対象に対しる者を表して、対象に対しる者を表して、対象に対しる者を表して、対象に対しる者を表して、対象に対しる者を表して、対象に対しる者を表して、対象に対しる者を表して、対象に対しる者を表して、対象に対しる者を表して、対象に対しる者を表して、対象に対しる者を表して、対象に対しる者を表して、対象に対しる者を表して、対象に対しる者を表して、対象に対しる者を表して、対象に対象を表して、対象に対しる者を表して、対象を表して、対象に対象を表して、対象に対象を表して、対象に対象を表して、対象に対象を表して、対象に対象を表して、対象に対象を表して、対象に対象を表して、対象に対象を表して、対象に対象を表して、対象に対象を表して、対象に対象を表して、対象に対象を表して、対象に対象を表して、対象に対象を表して、対象を表して、対象を表して、対象を表して、対象を表して、対象を表して、対象を表して、対象を表して、対象を表して、対象を表して、対象を表して、対象を表して、対象を表して、対象を表して、対象を表して、対象を表して、対象を表して、対象を表して、対象を表し、対象を表して、対象を表して、対象を表し、対象を表し、対象を表して、対象を表して、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表して、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、表し、対象を表し、表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表	.の埋解
・介護を必要としている人の個別性を理解し、全の人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。(評価ポイント)介護の専門性、医療・看護との連携を強力の上での大きなとして、外護における安全のは、場合によってはている人の人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。(評価ポイント)の大きなという視点を関するともに、場合によっては、一般における安全の、企業の対策とを表しまりとせず、サービスの書できる。(評価ポイント)の大きなと、実感できるよう促す。 4 介護・福祉サービスの理解と医療・看護との連携を度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。(評価ポイント)地域支援の役割、介護保険制度の方法を支援制度、その他制度、制度を支える財機能と役割を発して、大きの概要のポイントを列挙できる。(評価ポイント)地域支援の役割、介護保険制度の力性を促動し、大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント)地域支援の役割、介護保険制度の力性を促動し、対策における安全の・事体とともに、場合によっては、大き、大き、大力、安全、事な対策、全、小意味が関係のより、介護保険制度を担め、大き、対策における安全の・事を対策を必要・事を対策のより、分護保険制度を担め、対策保険制度を担め、対策保険制度を担いて、大きの概要のポイントを列挙できる。・利用者の生活を支援するための介護保険制度、その他制度、関係能と役割を関係に対する。・実術とともに、場合によっては、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、	種
を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。(評価ポイント) 介護の専門性、医療・看護との連携の必要性、職業倫理の重要性、介護リスクについて列挙できる。 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携のと変性、職業倫理の重要性、介護の専門性、医療・看護との連携を整定を変更して、介護保険制度・障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの位置付けや代表的なサービスの理解を促す。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの位置付けや代表的なサービスの理解を促す。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの自的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの自的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの自的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの自的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの位置付けや代表的なサービスの理解と関策との連携とリハビリテーション 「障害者自立支援制度はおいての他の制度」・「管害者自立支援制度はおいての他の制度」・「管害者面も立ちを関策といての他の制度」を対していて列挙できる。 「管害者を必要など表別を対していて列挙のよると表別を対していて対していて対していて対していて対していて対していて対していて対してい	
いう視点から支援を捉える事ができる。 (評価ポイント) 介護の専門性、医療・看護との連携 の必要性、職業倫理の重要性、介護場別スクについて列挙できる。 4 介護・福祉サービスの理解と 医療との連携 医療との連携 医療との連携 を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの位置付けや代表的なサービスの位置付けや代表的なサービスの理解を促す。 ・施設における看連携 のサービスの位置付けや代表的なサービスの理解を促す。 ・原言者福祉制度で書者福祉制度で書きる。 ・障害者に対して、定療との連携とリハビリテーション ・障害者自立支援制度はおいて、定済との連携とリハビリテーション ・原言者福祉制度できる。 ・施設における看連携 ・リハビリテーション ・原言者福祉制度はおいて、定済との連携とリハビリテーション ・原言者福祉制度はおいて、定済との連携とリハビリテーション ・原言者福祉制度はおいて、定済との連携とリハビリテーション ・原言者福祉制度はおいて、定済との連携とリハビリテーション ・原言者福祉制度はおいて、定済との連携とリハビリテーション ・原言者福祉制度はおいて、定済との連携とリハビリテーション ・原言者福祉制度はおいて、定済との連携とリハビリテーション ・原言者福祉制度はおいて、定済との連携とリハビリテーション ・原言者福祉制度はおいて、定済との連携とリハビリテーション ・原言者福祉制度はおいて、定済との連携といて、定済との連携とリハビリテーション ・原言者福祉制度はおいて、定済を対していて、定済との連携を促す。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
る。 (評価ポイント) 介護の専門性、医療・看護との連携 の必要性、職業倫理の重要性、介護リスクについて列挙できる。 4 介護・福祉サービスの理解と 医療との連携 を頼むう一員として最低限知ってお くべき制度の目的、サービス利用の 流れ、各専門職の役割・責務につい て、その概要のポイントを列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の 大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の で、その性活を支援するための介護保険制度、その他制度の で、その性活を支援するための介護保険制度の で、その性活を支援するための介護保険制度の では、その性活を支援するための介護保険制度の では、その性活を支援が表して、介護保険制度の では、その性活を支援が表して、介護保険制度の で、対理な常に対する では、その性に対して、介護保険制度の では、その性に対して、対理な常に対して、対理保険制度 ・ 介護保険制度 ・ 介護保険制度 ・ 介護保険制度 ・ 介護保険制度 ・ 対理な常に対す ・ 対理な常に対す ・ では、その性活を支援するための介護保険制度、その他制度 の 世紀みの基礎的 ・ が、動向 ・ に対して、対理な常に対す ・ に対して、対理な常に対して、対理な常に対して、対理な常に対して、対理な常に対して、対理な常に対して、対理な常に対して、対理な常に対して、対理な常に対して、対理な常に対して、対理な常に対して、対理な常に対して、対理な常に対して、対理なが表して、対理な常に対して、対理な常に対して、対理な常に対して、対理な常に対して、対理など、対理など、対理など、対理など、対理など、対理など、対理など、対理など	灯 束
介護の専門性、医療・看護との連携の必要性、職業倫理の重要性、介護リスクについて列挙できる。 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 の進援に関知っておきている。 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 をを担う一員として最低限知っておきている。 (支き制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。(評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度のサービスの位置付けや代表的なサービスの連携とリハビリテーション ・医行為と介護・施設における看連携・リハビリテーション ・障害者 国立支援制度 まよびその他の制度 で書きる自立支援制度 ・「障害者の自立支援制度などでの仕組みの基礎	健康管理
の必要性、職業倫理の重要性、介護リスクについて列挙できる。 4 介護・福祉サービスの理解と 医療との連携	
護リスクについて列挙できる。 で介護保険制度や障害者総合支援制度・障害者総合支援制度を担す。 ・介護保険制度・障害者総合支援制度を担す。 ・介護保険制度の理念に対する。 ・利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その概要のポイントを列挙できる。 ・利用者の生活を支援するための介護保険制度、での他制度、で、その概要のポイントを列挙できる。 ・利用者の生活を支援するための介護保険制度、での他制度、で、その他制度、で、手者総合支援制度、その他制度のサービスの位置付けや代表的なサービスの理解を促す。 ・原害者に対して、介護保険制度が、動向・仕組みの基礎的は、対象を支える財務によるを対象を支援制度、での性制度、では、対象を対象に対して、対策に対しる看達携・リハビリテーション でできる。 ・原害者には、対象を使い、対象を使い、対象を使い、対象を使い、対象に対しる看達・対象に対して、対象に対して、対象に対しる看達・対象に対して、対象に対して、対象に対して、対象に対して、対象に対し、対象に対して、対象に対し、対象に対しる。 ・原言者に対し、対象に対して、対象に対して、対象に対象を対象に対象を対象に対象を対象に対象を対象に対して、対象に対して、対象に対して、対象に対して、対象に対して、対象に対して、対象に対して、対象に対して、対象に対して、対象に対して、対象に対して、対象に対して、対象に対して、対象に対して、対象に対象を対象に対象を対象に対象を対象に対象を対象に対象を対象に対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	
一ビスの理解と 医療との連携 度を担う一員として最低限知ってお くべき制度の目的、サービス利用の 流れ、各専門職の役割・責務につい て、その概要のポイントを列挙できる。 う一員として、介護保険制度の理念に対す る理解を徹底する。 ・付組みの基礎的・制度を支える財機能と役割 との性ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の 大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 ・同量として、介護保険制度の理念に対す ・利用者の生活を中心に考えるという視点を 共有し、その生活を支援するための介護保険制度、その他制度 のサービスの位置付けや代表的なサービスの の理解を促す。 医療との連携とリハ ビリテーション ・医行為と介護 ・施設における看連携 ・リハビリテーショ で害者自立支援制度、まなびその他の制度 でいて列挙できる。 ・障害者福祉制度 ・障害者の自立まの仕組みの基礎	
一ビスの理解と 医療との連携 度を担う一員として最低限知ってお くべき制度の目的、サービス利用の 流れ、各専門職の役割・責務につい て、その概要のポイントを列挙できる。 う一員として、介護保険制度の理念に対す る理解を徹底する。 ・付組みの基礎的・制度を支える財機能と役割 との性ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の 大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 ・同量として、介護保険制度の理念に対す ・利用者の生活を中心に考えるという視点を 共有し、その生活を支援するための介護保険制度、その他制度 のサービスの位置付けや代表的なサービスの の理解を促す。 医療との連携とリハ ビリテーション ・医行為と介護 ・施設における看連携 ・リハビリテーショ で害者自立支援制度、まなびその他の制度 でいて列挙できる。 ・障害者福祉制度 ・障害者の自立まの仕組みの基礎	
医療との連携 くべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (アの関挙できる。) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの自的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの位置付けや代表的なサービスの理解を促す。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの自的や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの自動や概要について列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの位置付けや代表的なサービスの連携とリハビリテーション (管害者自立支援制度、その他の制度の大枠、サービスの自動や概要について列挙できる。) (でまるという視点を大機能と役割) (でまるとの連携とリハビリテーションの理解を促す。 (でいるとの性に対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	一般の背景及び目
流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。	1理解
る。 (評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の 大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 の理解を促す。 の理解を促す。 にリテーション でできる。 に関する。 に対するをできる。 に対するをできる。 に対すると介護 でリテーション できまる。 に対するをできる。 に対するをできる。 に対するの他の制度 でできる。 に対するの他の制度 を関する。 に対するの他の制度 でできる。 に対するの他の制度 の仕組みの基礎	源、組織・団体の
(評価ポイント) 地域支援の役割、介護保険制度の 大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。 のサービスの位置付けや代表的なサービス の理解を促す。 ビリテーション ・施設における看連携 しりハビリテーション で管害者自立支援制度およびその他の制度 ・障害者の自立を の仕組みの基礎	=±-111
地域支援の役割、介護保険制度の 大枠、サービスの目的や概要について列挙できる。	
いて列挙できる。 障害者自立支援制・障害者福祉制度 度およびその他の制度 ・障害者の自立 を 皮 の仕組みの基礎	成C/1 成 (7 区 11)
度およびその他の制 ・障害者の自立。 度 の仕組みの基礎	
度の仕組みの基礎	
・個人の権利を守	る制度の概要
	ミュニケーションの
コミュニケーショ ン能力は一人ひとり異なることと、そ しく傷つけるコミュニケーションとその理由に ニケーション 意義、目的、役害 ン技術 の違いを認識してコミュニケーション ついて考えさせ、相手の心身機能に合わせ ・コミュニケーショ	」 ンの技法、道具を
ていることを認識し、初任者として最・チームケアにおける専門職間でのコミュニ・利用者・家族と	のコミュニケーショ
低限の取るべき行動を理解してい ケーションの有効性、重要性を理解するとと ンの実際 る。	状態に応じたコミ
る。	
コミュニケーションのポイント、介護職 介護におけるチーム・記録における情	
としての視点、記録と機能の重要性のコミュニケーション・報告	114 - インコココロ
「これの理解 加齢・名化に行う心分の変化、疾病の症状等 名化に行う心とがら * 名中期の発達の について、生理的な側面から理解す について具体例を挙げ、その対応における だの変化と日常 の変化の特徴	ンを促す環境
ることの重要性に気づき、自らが継 留意点を説明し、介護において生理的側面 ・老化に伴う心身	ンを促す環境 と老化に伴う心身
続的に学習すべき事項を理解して の知識を身につけることの必要性への気づ 日常生活への影 日常生活への影 高齢者と健康 ・高齢者の疾病と	✓を促す環境 ・老化に伴う心身 ✓の機能の変化と
	ンを促す環境 と老化に伴う心身 の機能の変化と
心理的特徴、疾病を列挙できる。 活上の留意点	ンを促す環境 と老化に伴う心身 の機能の変化と 響 生活上の留意点
7 認知症の理解 / 介護において認知症を理解すること ・認知症の利用者の心理・行動の実際を示 認知症を取り巻く環 ・認知症ケアの理	ンを促す環境 と老化に伴う心身 の機能の変化と 響 生活上の留意点 気とその日常生
の必要性に気づき、認知症の利用 す等により、認知症の利用者の心理・行動を 境 者を介護する時の判断の基準となる 実感できるよう工夫し、介護において認知症 医学的側面から見た ・認知症の概念、	ンを促す環境 と老化に伴う心身 の機能の変化と 響 生活上の留意点 気とその日常生
	✓を促す環境 ・老化に伴う心身 ✓の機能の変化と 響 生活上の留意点 病気とその日常生
(評価ポイント)・複数の具体的なケースを示し、認知症の利 管理 ポイント、健康管:	ンを促す環境 と老化に伴う心身 の機能の変化と 響 生活上の留意点 気とその日常生
	ンを促す環境 老化に伴う心身 の機能の変化と 響 生活上の留意点 気とその日常生 念 認知症の原因疾 因疾患別ケアの
認知症の中核症状等の特性を列挙 促す。	ンを促す環境 之老化に伴う心身 の機能の変化と 響 生活上の留意点 気とその日常生 念 認知症の原因疾 (因疾患別ケアの
	を促す環境 老化に伴う心身 の機能の変化と 響 生活上の留意点 気気とその日常生 念 認知症の原因疾 因疾患別ケアの 里 生活障害、心理・
具体的な関わり方を概説できる。	を促す環境 老化に伴う心身 の機能の変化と 整 生活上の留意点 気とその日常生 念 認知症の原因疾 因疾患別ケアの 里 生活障害、心理・ への対応 程での援助

科目	目標	学習のポイント	項目	内容
8 障害の理解	障害の概念とICF、障害者福祉の基本		障害の基礎的理解	・障害の概念とICF
	的な考え方について理解し、介護にお			・障害者福祉の基本理念
	ける基本的な考え方について理解して		障害の医学的側面、生活障害な	•身体障害
	いる。	・高齢者の介護との違いを	どの基礎知識	•知的障害
	(評価ポイント)	念頭に置きながら、それぞ		•精神障害
	障害の概念と ICF を概説できる。	れの障害の特性と介護上の		・その他の心身の機能障害
	障害の特徴と基本的な介護の考え方	留意点に対する理解を促	家族の心理、かかわり支援の理	・家族への支援
	について列挙できる。	す。	解	・障害の理解・障害の受容支
				援
				介護負担の軽減

日 目 標 学習のポイント 9 ころとか らだのしくみと ただのしくみと 生活 支援 技 物
となる人体の構造
大きり 大きの 大きが 大
一次 では、
の学習
世代・一大学習 というない。
□ ・
又は全介助等の介護が実施できる。・
護が実施できる。・尊厳を保持し、行の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の。 (2) 生活 支援 を できるとからだの人の (2) 生活 支援 を できる人の (3) 生活を支える介護 技術の講義・演習 を できるとからだの人の (4) 生活を支える介護 大技術や知識を習得する。 (5) 作機がや知識を習得する。 (6) 作機がでの 生活を支える介護 大技術や知識を習得する。 (6) 作機ができる。 (6) 介護 大きの (6) 作成 (
・尊厳を保持し、その人の自立及び自 律を尊重し、持て
の人の自立及で自 律を尊重し、持て る力を発揮していら いながらその人の 在宅・地域等での 生活を支える介護 技術の講義・ 技術や知識を習得する。 (評価ポイント) 要介護高齢者の 生活について列挙できる。 介護技術の原則が概説できる。 介護大術の原則が概説できる。 介護大術の原則が表しているが表しての生活を支 を対しているが必要となる方で、 を対しているが必要となるが、 できる。 介護大術の原則が概説できる。 介護大術の原則が概説できる。 介護大術の原則が表しては、大力を関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護 を列挙できる。 介護、環境整備 を列挙できる。 介護、環境整備 を列挙できる。 介護、環境整備 を列挙できる。 介護、環境整備 を列挙できる。 介護、環境整備 を列挙できる。 介護、環境整備 を列挙できる。 介護、環境整備 を列挙できる。 介護、環境整備 を列挙できる。 介護、環境整備 を列挙できる。 介護、環境整備 を列挙できる。 介護、環境整備 を列挙できる。 介護、環境整備 を列挙できる。 八本の構造や機 能について列挙できる。 人体の構造や機 能について列挙できる。 人体の構造や機 能について列挙できる。 人体の構造や機 能について列挙できる。 人体の構造や機 能について列挙できる。 人体の構造や機 能について列拳できる。 人体の構造や機 能について列挙できる。 人体の構造や機 能について列挙できる。 人体の構造や機 能について列拳できる。 人体の構造や機 能について列拳できる。 と思う意欲を引き出 す。他の生活場面で も同様とする。・ ・で死に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護 食事に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護 食事に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護 ・食事に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護 ・食事に関連したこころとからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 ・人み、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 ・人浴、清潔保持に関する基礎知識、様々な入浴 用具と整の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 ・入浴、清潔保持に関連した正ころとから ・入浴、清潔保持に関連した正ころとから ・入浴、清潔保持に関連した基礎知識、様々な入浴 用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害する
#を尊重し、持て る力を発揮してもらいながらその人の ②生活支援 技術の講義・ 凌習 技術の講義・ (評価ポイント) 要介護高齢者の生活について列挙できる。 介護技術の原則が 概説できる。 介護予防の方法。 身体状況に合わせ た介護、環療整備 を列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 一人浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの更因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援の整備・食事関連した正方とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の元素と対験がある死に が見ばいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな
②生活支援 技術の講義・ 演習 ②生活支援 技術や知識を習得 する。 ②生活の大変を現してもらいながらその人の 在宅・地域等での 在宅・地域等での 在宅・地域等での を活を支える介護 技術や知識を習得 する。 (評価ポイント) 要介護高齢者の 生活について列挙できる。 介護技術の原則が 概説できる。 介護方院の方法、身体状況に合わせ た介護、環境整備 を列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 大体の構造や機能について列挙できる。 大体の構造や機能について列挙できる。 「死」に向かう生の方法を対したが表したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 食事に関連した三五を加強、食事環境の整備・食事関連した正ころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援・人浴、清潔保持に関連した正基礎知識、様々な入浴、清潔保持に関連した基礎知識、様々な入浴に対して、表述のしくみと自立に向けた介護
・利用者の様子の普段との違いに気づく視点
②生活支援 技術の講義・ 技術や知識を習得 する。 (評価ポイント) 要介護高齢者の 生活でする。 (評価ポイント) 要介護高齢者の 生活でついて列挙できる。 介護技術の原則が 概説できる。 介護技術の原則が 概説できる。 介護予防の方法、身体状況に合わせた介護、環境整備を列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 本来を提供したいと思う意欲を引き出するに向けた介護 と思う意欲を引き出するに向けた介護 は事を提供したいと思う意欲を引き出するについた介護 と思う意欲を引き出するについた介護 食事に関連したこころとからだのしくみと 食事に関する基礎知識、様々な移動・移乗に関する用力法、利用者・介助者にとって 要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と 支援 ・食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事関連したこころとからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだのしくみ、楽しい食事を配害するこころとからだの更因の 理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 で食事に関連した主選の知識、様々な入浴 清潔保持に関連した基礎知識、様々な入浴 清潔保持に関連した基礎知識、様々な入浴 情別保持に関連した基礎知識、様々な入浴 情別保持に関連した基礎知識、様々な入浴 情別保持に関連した基礎知識、様々な入浴 情別保持に関連した基礎知識、様々な入浴 情別保持に関連した基礎知識、様々な入浴 情別保持に関連した基礎知識、様々な入浴 情別な行い方法、楽しい入浴を阻害する
技術の講義・ 技術や知識を習得する。 (評価ポイント) 要介護 高齢者の 生活について列挙できる。 介護技術の原則が概説できる。 介護予防の方法、身体状況に合わせた介護、環境整備を列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 不実と尊厳ある死に
技術や知識を習得する。 (評価ポイント) 要介護高齢者の生活について列挙できる。 介護技術の原則が概説できる。 介護予防の方法、身体状況に合わせた介護、環境整備を列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 家事援助の基本 を記し、表別の基本 を記し、表別の表別に を記し、表別の表別に関する基礎知識、、書籍者・範書 を記し、表記の語に を記述の表別に関する基礎知識、を容の支援技術 を記述の表別に関する基礎知識、表別の表別に関する基礎知識、表別の表別に を表別の表別に関する基礎知識、表別の表別に関する基礎知識、表別の表別に を表別の表別に関する基礎知識、表別の表別に関する基礎知識、表別の表別に関する表で、表別の表別に関する表別に関する表別に を表別の表別に関する表別の表別に を表別の表別に関する表述の表別に関する基礎知識、表別の表別に関する表述の表別に を表別の表別に関する表述の表別に関する表述の表別に関する表述の表別に を表別の表別に関する表述の表別に関する表述の表別に関する表述の表別に を表別の表別に関する表述の表別に関する表述の表別に関する表述の表別に を表別の表別に関する表述の表別に関する表述の表別に関する表述の表別に関する表述の表別に を表別の表別に関する表述の表別に関する表述の表別に関する表述の表別に関する表述を表別に関する表述を表別に関する表述を表別に関する表述を表別に関する表述を表別に関する表述を表別に関する表述を表別に関する表述を表別に関する表述を表別に関する表述を表別に関する表述を表別に関する表述を表述を表別に関する表述を表述を表別に関する表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表
する。 (評価ポイント) 要介護高齢者の 生活について列挙 できる。 介護技術の原則が 概説できる。 介護予防の方法、身体状況に合わせ た介護、環境整備 を列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 、「死」に向かう生の表別、人浴、清潔保持に関連したこころとからだのとくみと自立に向けた介護 す。・例えば、「食事の介護技術」 ・整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 を事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ・食事に関する基礎知識、様々な移動・移乗に関する基礎知識、後事環境の整備・食事関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのとくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要類のと表別、、「死」に向かう生の充実と尊厳あるでに、大浴、清潔保持に関連したこころとから、 カ浴、清潔保持に関連したこころとから カスト、「不実と尊厳あるでに、」 ・人浴、清潔保持に関連したこころとから 中異解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援・なり、楽しい食事を阻害するこころとからだの要類の企業技術と福祉用具に関する留意点と支援・を動い移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ・食事に関する基礎知識、様々な移動・移乗に関連したこころとからだのと、実践・発動と社会参加の留意点と支援・であります。 ・人浴、清潔保持に関連したこころとからだのと、、楽しい食事を阻害するこころとからだの要類の音楽とは会がから対象を関連した。 ・「死」に向かう生の表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表
・例えば、「食事の介護 高齢者の 生活について列挙できる。 介護技術の原則が 概説できる。 介護予防の方法、身体状況に合わせた介護、環境整備を列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 大下選手援助の基本 変素 援助の基本 で、一下変しに向かう生の表 まままりのといる を ままました。 と思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 ・「死」に向かう生の表 ままりの まままました。 ・「死」に向かう生の表 ままりのといる を ままと きまる とからだのしくみと も立に向けた介護 と思う意欲を引き出す。 他の生活場面でも同様とする。 ・「死」に向かう生の表 家事援助の基本 で、一下変しに向かう生の表 ままりのしくみと自立に向けた介護 を は、 変渉のと社会参加の留意点と支援 を は、 変渉のと社会参加の留意点と支援 を は、 変渉のを呼ば、 変渉のと社会参加の留意点と支援 を は、 変渉のを呼ば、 変渉のとは、 変渉のとは、 変渉のを開き、 変渉のとは、 変渉のを関するころとからだのしくみと は、 変渉のとは、 変渉のを無・食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事関連したこころとからだのしくみ、 楽しい食事を阻害するこころとからだの更因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 ・ 入浴、清潔保持に関連した基礎知識、様々な入浴 にのしくみと自立に向けた介護 カンドのしくみと自立に向けた介護 カンドのしくみと自立に向けた介護 カンドのしくみと自立に向けた介護 カンドのしくみと自立に向けた介護 カンドのしくみと自立に向けた介護 カンドのしくみと自立に向けた介護 カンドのしくみと自立に向けた介護 カンドのよりに対するとない。 ・ 大浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 カンドのよりに対するとない。 ・ 大浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 カンドのよりに対するとない。 ・ 大浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 からないのは、 変渉のよりに対するとない。 ・ 大浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 からだのしくみと自立に向けた介護 からないのよりに対するとない。 ・ 大浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ、楽しい食事を阻害するころとからだのしくみ、楽しい食事を阻害するころとからだのしくみ、楽しい食事を阻害するころとからだのしくみ、楽しい食事を阻害するころとからだのして、 変渉のよりに対する は、 変渉のよりに対する は、 変渉のよりに対する まずのよりに対する が、 変渉のよりに対する が、 変渉のよりに対する は、 変渉のよりに対
要介護高齢者の 生活について列挙 できる。 介護技術の原則が 概説できる。 介護予防の方法、身体状況に合わせ た介護、環境整備 を列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 不変事援助の基本 家事援助の基本 家事援助の基本 を列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 不変も変数あるで、 を記言欲を引き出す。他の生活場面で も同様とする。 ・「死」に向かう生の 充実と尊厳あるで、 でのしくみと自立に向けた介護 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ・食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ・食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 入浴、清潔保持に関連したこころとから だのしくみと自立に向けた介護
生活について列挙できる。 介護技術の原則が概説できる。 介護予防の方法、身体状況に合わせた介護、環境整備を列挙できる。人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 大事を提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 「死」に向かう生の表表。 「死」に向かう生の方法、自立に向けた介護 自立に向けた介護 自立に向けた介護 自立に向けた介護 自立に向けた介護 「移動・移乗に関する基礎知識、様々な移動・移乗に関する基礎知識、様々な移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の要解・食事関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 「企事を限事を限事を限事を限事を限事を限事を限事を発生会参加の留意点と支援を表表。 「死」に向かう生の表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表
介護技術の原則が 概説できる。 介護予防の方法、 身体状況に合わせた介護、環境整備を関手を提供したいと思う意欲を引き出 人体の構造や機能について列挙できる。 家事援助の基本 家事援助の基本 を力能に関連したこころとからだのしくみとを表した。 「死」に向かう生の表表を表した。 家事援助の基本 を力能について列挙できる。 家事援助の基本
概説できる。 介護予防の方法、 身体状況に合わせ た介護、環境整備 を列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 家事援助の基本 家事援助の基本 を列塞できる。 家事援助の基本 を列撃できる。 できる。 家事援助の基本
介護予防の方法、 身体状況に合わせ た介護、環境整備 を列挙できる。 人体の構造や機 能について列挙で きる。 家事援助の基本 家事援助の基本 を記さらに、そ の利用者が満足す る食事を提供したい と思う意欲を引き出 す。他の生活場面で も同様とする。 下死」に向かう生の 充実と尊厳ある死に 大浴、清潔保持に関連したこころとから でのしくみと もした用具・食器の活用方法と食事形態とからだのし くみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の 理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 ・入浴、清潔保持に関連したこころとから たのしくみと ・入浴、清潔保持に関連したこころとから がのしくみと ・大浴、清潔保持に関連したこころとから 所入浴、清潔保持に関連したこころとから 用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害する
身体状況に合わせた介護、環境整備を列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 言る。 家事援助の基本を表し、「死」に向かう生の方案。 家事援助の基本を表した。 を実と尊厳ある死に、ため、大変に関する基礎知識、食事環境の整備・食事関連したこころとからだの更ののできる。 では、他の生活場面では、一般では、他の生活場面では、他の生活場面では、一般では、他の生活場面では、一般では、他の生活場面では、他の生活場面では、他の生活場面では、他の生活場面では、一般では、他の生活場面では、一般では、他の生活場面では、一般では、他の生活場面では、一般では、他の生活場面では、一般では、他の生活場面では、一般では、他の生活場面では、一般では、他の生活場面では、一般では、他の生活場面では、一般では、他の生活場面では、一般では、他の生活場面では、一般では、他の生活場面では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般
た介護、環境整備を列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 も同様とする。 ・「死」に向かう生の表事援助の基本を関連したこころとからだのしくみときる。 家事援助の基本を関連したこころとからだのしくみとも立に向けた介護。 を事に関連したこころとからだのしくみと、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援を対象を限した。 ・入浴、清潔保持に関連したこころとから、カンド、大浴、清潔保持に関連した基礎知識、様々な入浴を阻害する。
を列挙できる。 人体の構造や機能について列挙できる。 きる。 家事援助の基本 家事援助の基本 を思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 ・「死」に向かう生の充実と尊厳ある死に である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。
人体の構造や機能について列挙でも同様とする。 ・「死」に向かう生の 家事援助の基本 家事援助の基本 不実と尊厳ある死に ・「死」に向かる死に ・「死」と尊厳ある死に ・「死」と尊厳ある死に ・「死」と尊厳ある死に ・「死」と尊厳ある死に ・「死」と問がた力酸 ・「死」と自立に向けた介護 ・「不りとしてるとからにの要因の ・「不りとしてるという。・「不りとしてるという。」・「不りとしてるという。」・「不りとしてるという。」 ・「不りとしてるという。」 ・「不りとしてるという。」 ・「不りとしてるという。」 ・「不りとしてるという。」 ・「死」に向かるのでは、一次に向いるとしている。 ・「死」に向いるとして、一次に向いるとしているとして、一次に向いなりではのいるとして、一次に向いるとして、一次に向いるとして、一次に向いるとして、一次に向いるとして、一次に向いるとしてのいるとして、一次に向いるとして、一次に向いるとして、一次に向いるとしてのいるとして、一次にのいるとして、一次に向いるとして、一次にのい
能について列挙でも同様とする。 きる。 家事援助の基本 を主要と ・「死」に向かう生の 家事援助の基本 を主要と ・「死」に向かう生の 大窓、清潔保持に関連したこころとから た実と尊厳ある死に だのしくみと自立に向けた介護 ・入浴、清潔保持に関連した基礎知識、様々な入浴 用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害する
きる。
家事援助の基本 充実と尊厳ある死に だのしくみと自立に向けた介護 用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害する
「一」 「一
エー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
原則について列挙 ついて考えることか こころとからだの要因の理解と支援方法 できる。 できるように、身近な 排泄に関連したこころとからだのしくみと ・排泄に関する基礎知識、様々な排泄環境整備と排
食事、入浴、排泄 素材からの気づきを 自立に向けた介護 世界具の活用方法、爽快な排泄を阻害するこころと
などの介助を行うことに同りた月霞は、一個角葉の活用が伝、残れな評価を阻害することと、
とができる。
立に向けた介護 活用方法、快い睡眠を阻害するこころとからだの要因
の理解と支援方法
死にゆく人に関したこころとからだのしく・終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ。
みと終末期介護生から死への過程、「死」に向き合うこころの理解、苦
痛の少ない死への支援
③生活支援 介護過程の基礎的理解 ・介護過程の目的・意義・展開
技術演習・介護過程とチームアプローチ
総合生活支援技術演習・事例による生活の各場面での介護について、ある状
態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する
流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあ
わせた介護を提供する視点の習得
・実際に現場を見学し、ケアの在り方や必要性を学ぶ

科 目	目 標	学習のポイント	項	目	内容
10 振り返り	研修全体を振り返		振り返り		研修を通して学んだこと
	り、本研修を通じて	居る」という意識を持って、その状態における模擬演習(身だしなみ・			・今後継続して学ぶべきこと
	学んだことについ	言葉遣い・対応の態度等の礼節を含む。)を行い、業務における基			┃・根拠に基づく介護につい┃
	て再確認を行うとと	本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。			ての要点
	もに、修了後も継	・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受			継続的に学ぶべきこと
	続して学習・研鑽	講者自身に表出・言語化させた上で、利用者の生活を支援する根拠			・研修修了後における継続
	する姿勢の形成、	に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。			的な研修について、具体的
	学習課題の認識を	・修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身に付けるべき			にイメージできるような事業
	図る。	知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何			所における実例を紹介
		を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。			
		・最新知識の付与と、次のステップ(職場環境への早期適応等)へ向			
		けての課題を受講者が認識できるよう促す。			
		・介護職の仕事内容や働く現場、事業所等における研修の実例等に			
		ついて、具体的なイメージを持たせるような教材の工夫、活用が望ま			
		しい。			